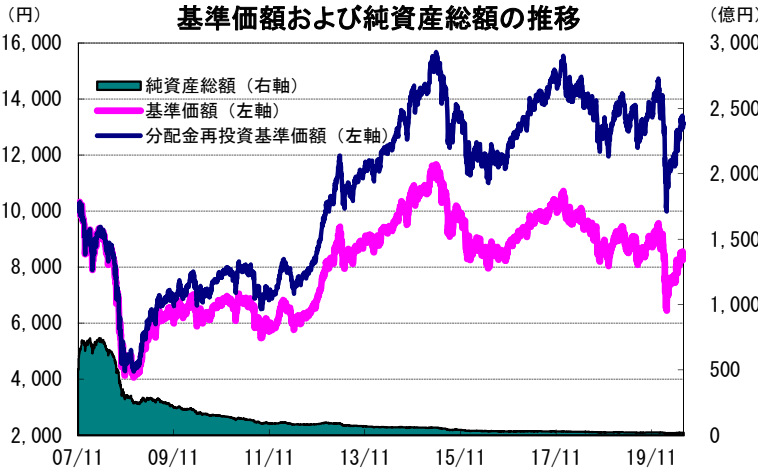


スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)

基準日 2020年07月31日



* 当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
* 当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

設定日	2007年11月30日
信託期間	2027年11月10日まで
決算日	毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月の各10日(休業日の場合は翌営業日)

基準価額	8,392円
純資産総額	18.41億円

ファンドの資産配分	
SPARX・アジア・ミッドイースト・エクイティ・インカム・ファンド	97.7%
スパークス・マネー・マザーファンド	0.6%
現金等	1.7%

【ご参考】

基準価額変動の要因分解(月次ベース)

基準価額変動金額		577円
内訳	株式等	812円
	アジア太平洋地域	2円
	中東地域	-223円
	為替	-14円
	その他	-223円

* 金額は対象期間における基準価額(分配金込み)の変動を表したものです。
* 上記は参考情報として当社が算出した概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

* 基準価額は信託報酬控除後の値です。
信託報酬には、投資対象とする投資信託分を含みます。
* 分配金再投資基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の投資家利回りとは異なる点にご留意下さい。

騰落率	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
	4.59%	11.43%	-2.58%	-4.13%	-7.05%	31.44%

* 基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し、計算しています。

分配金実績(税引前)

決算期	第65期	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期	第76期
	18/9/10	18/11/12	19/1/10	19/3/11	19/5/10	19/7/10	19/9/10	19/11/11	20/1/10	20/3/10	20/5/11	20/7/10
分配金	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円	45円
分配金累計	直近12期計		設定来合計									
	540円		3,450円									

ポートフォリオの配分

国・地域別配分

	国・地域	比率	比率
アジア太平洋	香港	24.7%	94.7%
	台湾	20.6%	
	中国	15.7%	
	オーストラリア	13.4%	
	その他	20.3%	
中東	UAE	1.2%	1.6%
	サウジアラビア	0.4%	
現金等	—	3.7%	3.7%
合計		100.0%	100.0%

通貨別配分

	通貨	比率
1	香港ドル	38.0%
2	台湾ドル	21.4%
3	豪ドル	13.9%
4	韓国ウォン	8.1%
5	中国元	3.9%
	その他	14.7%
	合計	100.0%

業種別配分

	業種	比率
1	情報技術	25.3%
2	金融	17.4%
3	生活必需品	14.2%
4	一般消費財	12.3%
5	コミュニケーション	10.6%
	その他	20.2%
	合計	100.0%

* 業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

* スパークス・アジアの内部データを元に、スパークス・アセット・マネジメントが作成。
* 比率はSPARX・アジア・ミッドイースト・エクイティ・インカム・ファンドを100%とした場合の構成比です。
* P-NOTEやADR等に投資している銘柄の通貨は、現地通貨ベースで算出しています。
P-NOTEとは、株式や株価指数の価格変動に運用成果が連動する債券のことです。
ADRとは、主に米国で取引される、株式を代替する預託証券のことです。

■ 当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■ 当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合があります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■ 投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■ 投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■ 当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■ 当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■ 当資料の正確性及び完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■ 当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■ 当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(資産成長型)

基準日 2020年07月31日

基準価額および純資産総額の推移



* 基準価額は信託報酬控除後の値です。信託報酬には、投資対象とする投資信託分を含みます。
* 分配金再投資基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものであり、実際の投資家利回りとは異なる点にご留意下さい。

騰落率	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
	4.65%	10.73%	-2.23%	-3.62%	-6.06%	162.13%

* 基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資し、計算しています。

* 当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
* 当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

設定日	2008年11月12日
信託期間	2027年11月10日まで
決算日	毎年11月10日 (休業日の場合は翌営業日)

基準価額	26.213円
純資産総額	0.24億円

ファンドの資産配分	
SPARX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンド	93.8%
スパークス・マネー・マザーファンド	0.0%
現金等	6.2%

【ご参考】

基準価額変動の要因分解(月次ベース)			
基準価額変動金額			1,165円
内訳	株式等	アジア太平洋地域	1,618円
		中東地域	4円
	為替		-445円
	その他		-12円

* 金額は対象期間における基準価額の変動を表したものです。

* 上記は参考情報として当社が算出した概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。

分配金実績(税引前)

決算期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期	第11期
	10/11/10	11/11/10	12/11/12	13/11/11	14/11/10	15/11/10	16/11/10	17/11/10	18/11/12	19/11/11
分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

分配金累計	直近10期計	設定来合計
	0円	0円

ポートフォリオの配分

国・地域別配分

	国・地域	比率	比率
	アジア太平洋	香港	24.7%
台湾		20.6%	
中国		15.7%	
オーストラリア		13.4%	
その他		20.3%	
中東	UAE	1.2%	1.6%
	サウジアラビア	0.4%	
現金等	-	3.7%	3.7%
合計		100.0%	100.0%

通貨別配分

通貨	比率
1 香港ドル	38.0%
2 台湾ドル	21.4%
3 豪ドル	13.9%
4 韓国ウォン	8.1%
5 中国元	3.9%
その他	14.7%
合計	100.0%

業種別配分

業種	比率
1 情報技術	25.3%
2 金融	17.4%
3 生活必需品	14.2%
4 一般消費財	12.3%
5 コミュニケーション	10.6%
その他	20.2%
合計	100.0%

* 業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

* スパークス・アジアの内部データを元に、スパークス・アセット・マネジメントが作成。
* 比率はSPARX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドを100%とした場合の構成比です。
* P-NOTEやADR等に投資している銘柄の通貨は、現地通貨ベースで算出しています。
P-NOTEとは、株式や株価指数の価格変動に運用成果が連動する債券のことです。
ADRとは、主に米国で取引される、株式を代替する預託証券のことです。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)/(資産成長型)

基準日 2020年07月31日

組入上位銘柄

NO	銘柄名	Pnote	国・地域	業種	組入比率	配当利回り
1	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co Ltd		台湾	情報技術	9.0%	2.7%
2	Tencent Holdings Ltd		中国	コミュニケーション・サービス	6.6%	0.2%
3	AIA Group Ltd		香港	金融	6.6%	1.9%
4	MediaTek Inc		台湾	情報技術	6.1%	1.9%
5	Transurban Group		オーストラリア	資本財・サービス	5.1%	3.4%
6	Samsung Electronics Co Ltd		韓国	情報技術	4.9%	2.6%
7	Hong Kong Exchanges & Clearing Ltd		香港	金融	4.8%	2.0%
8	CSL Ltd		オーストラリア	ヘルスケア	4.2%	1.0%
9	KWG Group Holdings Ltd		香港	不動産	3.7%	7.0%
10	eMemory Technology Inc		台湾	情報技術	3.0%	1.4%

* 上記の銘柄の中には現株を含みます。
* 個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。
* 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

* 比率はSPARKX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドを100%とした場合の構成比です。
* 配当利回りは12ヶ月配当利回り(税引前)です。
* 業種は世界産業分類基準(GICS)の分類に基づきます。

地域別組入上位銘柄の概要

アジア・太平洋地域

アジア太平洋	銘柄名	Pnote	国・地域	銘柄概要
1	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co Ltd		台湾	台湾積体回路製造 [TSMC/台湾ゼンゴクタ] (Taiwan Semiconductor Manufacturing Company Ltd.) は半導体メーカー。ウエハー製造、プロービング、組み立て、テストのほか、マスクの製造、設計、関連サービスを提供。同社の IC (集積回路) はコンピュータ、通信、消費者向け電子製品、自動車、産業機器などに使用される。
2	Tencent Holdings Ltd		中国	騰訊 [テセント・ホールディングス] (Tencent Holdings Limited) は投資持株会社。中国、米国、欧州などのユーザーにインターネットおよびモバイル付加価値サービス (VAS)、オンライン広告サービス、電子商取引サービスを提供する。
3	AIA Group Ltd		香港	友邦保険控股 [AIAグループ] (AIA Group Ltd.) は生命保険および金融サービス会社。個人・企業向け生命保険、傷害疾病保険、年金プランならびに健康管理サービスを提供。
4	MediaTek Inc		台湾	聯発科技 [メディアテック] (MediaTek Inc.) は、無線通信およびデジタルマルチメディア・ソリューションのファブレス半導体メーカー。無線通信、高解像度テレビ、光ディスク、DVD、ブルーレイ製品向けのSOCシステムソリューションを提供する。
5	Transurban Group		オーストラリア	トランスアーバン・グループ (Transurban Group) は道路建設会社。Melbourne City Linkと有料道路 Hills Motorway M2 を運営する。料金所システムの電子化と設営も手掛ける。

中東地域

中東	銘柄名	Pnote	国・地域	銘柄概要
1	First Abu Dhabi Bank PJSC		UAE	ファースト・アブダビ・バンク (First Abu Dhabi Bank PJSC) は銀行。預金、個人向けローン、e-バンキング、貿易金融、外貨取引、その他の銀行サービスを手掛ける。世界各地で事業を展開。
2	Saudi British Bank/The		サウジアラビア	サウジ・ブリティッシュ・バンク (Saudi British Bank) は、預金業務、リテールおよびコマース・バンキング・サービスを提供。消費者・シンジケートローン、仕組み債、プロジェクト金融、証券仲介、ファイナンシャル・プランニング、プライベート・バンキング、ミューチュアルファンド、ファクタリング、財務サービスなどを手掛ける。

* 上記は個別銘柄の取引を推奨するものではありません。
* 上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。
* 出所: 各社ホームページ

* 上記はSPARKX・アジア・ミドルイースト・エクイティ・インカム・ファンドの組入上位銘柄です。
* ADRとは主に米国で取引される、株式を代替する預託証券のことであり、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合があります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。
* P-NOTEとは、株式や株価指数の価格変動に運用成果が連動する債券のことであり、中東は全組入銘柄の概要です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合があります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)/(資産成長型)

基準日 2020年07月31日

コメント

■市場環境

《アジア株式》

当月、アジア株式市場はまちまちの値動きでした。

台湾、インド、中国などの株式市場は堅調に推移しましたが、タイとフィリピンなどは軟調に推移しました。IT関連銘柄、ニューエコノミー関連銘柄の業績の好調さが、上昇基調を保つ要因となり、株式市場にもプラスに貢献しました。

当ファンド組入銘柄のTaiwan Semiconductor Manufacturing CompanyやMediaTek Incといった台湾のテクノロジー関連銘柄は、5G(第5世代移動通信システム)スマートフォン、データセンター、家庭用ゲーム機などの需要見通しが引き続き底堅さを見せたことから、当月内に過去最高値を更新しました。

中国では2020年第2四半期(4-6月)のGDP(国内総生産)が前年同期比3.2%増となり、同国経済がインフラ関連、不動産関連、自動車関連といったセクターに牽引される形で回復しつつあることが裏付けられました。ニューエコノミー関連銘柄とヘルスケア関連銘柄が、引き続き中国人投資家の関心の的となっています。

インドでは、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしているにもかかわらず、政府が一部のロックダウンを緩和しました。インド株式市場が上昇したのは、コンピューターサービス会社のInfosys社、石油化学などを手掛けるReliance Industries社などの貢献によるものです。

インドネシアとフィリピンは、新型コロナウイルス感染者数がASEAN諸国の中で最も多く、経済活動が停滞しています。海外からフィリピンへの送金額も減少し、消費支出がさらに落ち込みました。

《中東株式》

当月、中東株式市場はまちまちの値動きとなりました。

原油価格は回復基調を保ちましたが、新型コロナウイルス感染拡大に対する懸念と経済成長率の弱さに引き続き注目が集まりました。企業業績の見通しは暗く、銀行の不良債権拡大に対する不安が広がっています。

《通貨》

当月、多くのアジア地域の通貨は、オーストラリアドルなどを除き対日本円で下落しました。特に、インドネシアルピア、タイバーツなどが対日本円で下落しました。

■運用状況

《アジア株式》

当月、当ファンドが保有する株式のリターンは、プラスとなりました。

セクター別では、情報技術セクター、一般消費財セクターなどがプラスに貢献し、一方で、公益事業セクター、ヘルスケアセクターなどがマイナスに影響しました。

国別では、台湾、中国、韓国などがプラスに貢献し、マレーシア、インドネシアなどがマイナスに影響しました。

銘柄別では、Taiwan Semiconductor Manufacturing Company(台湾/情報技術)、MediaTek Inc(台湾/情報技術)、Hong Kong Exchange & Clearing(香港/金融)などが、プラスに貢献しました。一方で、AIA Group Ltd(香港/金融)、Guangdong Investment Ltd(香港/公益事業)、President Chain Store(台湾/生活必需品)などが、マイナスに影響しました。

当月は、台湾のテクノロジーセクターが堅調に推移しました。そのため、当ファンドが組み入れているTaiwan Semiconductor Manufacturing CompanyとMediaTek Incは、パフォーマンスに貢献しました。

両社は5Gの普及(スマートフォンと基地局がいずれも成長)、クラウドコンピューティング、IoT(モノのインターネット)といったメガトレンドの加速を受け、好調な2020年第2四半期(4-6月)決算と楽観的な第3四半期(7-9月)予測を発表しました。Taiwan Semiconductor Manufacturing Companyは2020年の売上成長率が前年比20%に達し、業界平均の売上成長率の一桁台前半を大幅に上回ると予想しています。さらに今年の年間設備投資額を10億米ドル上方修正して160-170億米ドルとしたことから、顧客からの需要の堅調さが窺えます。

Taiwan Semiconductor Manufacturing Companyの成功要因は、三つの戦略(①技術的優位の維持、②他社より優れた製造方法の採用、③顧客の信頼獲得)をとったことにあります。同社が技術とコストの両面で優位に立っていることは、先日、Intel社(米国)が半導体チップ製造を同社に委託する予定であるというニュースが流れたことで、改めて裏付けられました。小型で高性能な半導体チップを製造する上での技術的障壁はますます高くなっており、他社の参入を阻む高い壁となっています。当ファンドは引き続き、同社が情報技術セクター内のポジションをさらに盤石なものにすると考えています。

当月のパフォーマンスにマイナスに影響した銘柄の一つに、当ファンドの組入上位銘柄であるAIA Group Ltd(香港/金融)があります。

同社はアジア地域に特化した生命保険会社で、同地域における所得の増加や保険の認知の高まりを背景に、ここ10年間で成長してきました。しかし、直近数ヶ月間にわたる「コロナ危機」の間、ソーシャルディスタンス確保のために対面販売が制限され、保険販売員の生産性が大幅に低下しています。

(次ページへ)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・アジア中東株式ファンド(隔月分配型)/(資産成長型)

基準日 2020年07月31日

コメント

(前ページより)

しかし、当ファンドは「コロナ危機」が収束すれば同社の業績は回復し、力強く成長すると考えています。同社は今年初めに中国の規制当局から事業許可を取得しており、今後は中国本土の保険加入件数を積極的に拡大する計画であることから、今後数年間の業績を牽引するのは中国事業となるでしょう。中国本土の生命保険加入率はいまだにかなり低水準で、同社の市場シェアもごくわずかに過ぎません。したがって戦略さえ間違わなければ、成長性はかなりあると言えます。同社は香港、タイ、シンガポールでの成功要因となった事業モデルを活用しながら現地の市場環境に適応することで、中国本土でも質の高い代理店網の構築に注力しており、そうした取り組みによってブランドイメージと価格決定力がさらに高まることになるでしょう。

当ファンドは、引き続き既存の投資先を注視し、また今後の投資先候補の企業に関する調査も継続することで、優れたビジネスモデル、良好なバランスシート、持続的な成長の見通しを備えた「優良企業」を選別してまいります。

《中東株式》

当月は、Saudi British Bank (サウジアラビア/金融) が当ファンドのパフォーマンスにプラスに貢献した一方で、First Abu Dhabi Bank (アラブ首長国連邦/金融) は若干マイナスに影響しました。

中東地域では新型コロナウイルス感染拡大が続くことで、経済成長率に影響がおよび、不良債権の増加懸念が高まっています。手元資金の確保と自己資本比率の維持を目的として減配が行われる可能性があります。

《通貨》

当月、アジア地域および中東地域の通貨の多くは、オーストラリアドルを除いて対日本円で下落し、当ファンドのリターンにマイナスに影響しました。

■今後の見通し

《アジア株式》

短期的観点でみると、本格的な景気回復を遅らせる主要なリスクは新型コロナウイルス感染拡大の第二波です。アジア各国の新型コロナウイルスの感染段階は国によって異なります。インドやASEAN諸国といった新興国では、感染者数の増加によって経済がより大きな打撃を受ける可能性があります。各国政府と中央銀行は企業や個人向けの救済策を提示し続けています。引き続き必要に応じて追加の金融財政政策を講じる必要があると、当ファンドは考えています。

米中関係が短期的に大きく改善する可能性は低いでしょう。米国大統領選挙が迫る中、状況が今後数ヶ月間でさらに先行き不透明になる可能性もあります。中国企業が米国市場に進出できる機会は減少していますが、国内市場回帰というトレンドの加速によって、そうした影響は相殺される可能性があります。

「生活様式のデジタル化」という流れは「コロナ危機」の収束後も続くでしょう。オンラインショッピング、オンライン教育、オンライン医療、オンライン映画、出前、その他多数のサービスの拡大によって、消費者の支出行動が変容することになります。当ファンドは、こうした分野の新たなトレンドに乗じる力を持つ銘柄を新たに組み入れています。

人口構成による下支え、消費行動の変化、インフラ支出、新たなセクター・マーケットの発達といったアジア地域の構造的トレンドは、長期的な投資を行って利益を獲得する機会を潤沢に提供してくれるでしょう。私どもは、消費、インフラ、技術革新といった長期的テーマの恩恵に浴する優良企業に注目することで、不確実な情報に惑わされて不合理で短絡的な取引をすることのないように心掛けてまいります。アジア地域は長期的かつ構造的なトレンドを活かせる質の高い投資先候補銘柄が多数存在する有望市場であると、私どもは考えます。

《中東株式》

原油市場の価格変動が激しく、地政学的リスクがあることから、当ファンドは中東の株式市場を慎重に見ています。原油価格が反発したことで多少の安心感があるとはいえ、経済成長の減速や財政収支の悪化は依然として投資家心理に影を落としています。

銀行セクターは短期的に不良債権への圧力に直面する可能性があります。長期的には、銀行セクターのM&A (企業買収・合併) が引き続き中東地域の主な投資テーマの一つになるでしょう。当ファンドは、金融セクターの保有銘柄を引き続きポジティブに見ています。

《通貨》

通貨は、短期的には資本フローの影響によって大きく変動すると思われませんが、長期的観点で見ると、アジア地域および中東地域の経済のファンダメンタルズに力強さがみられることから、両地域の通貨は対日本円で上昇すると、私どもは考えます。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写をすることを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。